

編 集 後 記

山形大学紀要(医学)第24巻2号をお届けいたします。とは言っても、私は本年4月に委員長の職を本山悌一教授から引き継いだばかりですので、本号の内容は本山委員長によるものです。本誌は元々投稿原稿が少なく、歴代の編集委員長は原著論文の原稿集めに苦勞されていたようですが、今回も望月政司名誉教授の論文以外は、新しく就任された山崎健太郎教授の第90回日本法医学会総会の内容に関する「記事」と学内で開催されている研究会の抄録2編のみであり、寂しい限りです。望月先生の論文も本山先生がお願いして書いていただいたと伺っております。勿論、山崎先生の「記事」も依頼原稿です。投稿原稿は2つの研究会からのみと言うことになります。

このような状態が続けば、本誌の存在意義が問われることは火を見るより明かです。本来本誌に投稿すべき本学職員の多くが、投稿の意義を低く見ているための現象であることは明らかなのですが、この辺で本誌存続の是非について議論する必要があるのではないかと感じてしまいます。「紀要」はどの学部にもあるわけですが、学会誌と商業誌のいずれも充実している医学分野においては、引用される機会の少ない本誌に投稿する意義はどうしても低くなります。「紀要」に発表した論文が業績として低く見られたり、あるいはカウントされないとすると、本誌に投稿するモチベーションは弥が上にも下がります。この問題を何とかしなければ、本誌への原著論文の投稿は決して増えることはないと思います。どの学会誌も投稿数の減少に頭を悩ませている昨今の現況を考慮すると、本誌存続の是非も含めて本質的なところから議論すべきものと思います。

編集委員長 青 柳 優(2006年7月)